



# わかさと

第

128

号

2010

平成22年10月発行



## INDEX

- 02** 大人への道  
大川学園の「食育教室」  
～50年の歴史をもつ調理専門  
学校の食育教室～
- 04** わかさと時評14  
「学校経営品質」って  
ご存知でしょうか
- 06** 中学生のメッセージ2010  
(第32回少年の主張三重県大会)報告

- 08** 平成22年度青少年育成の  
ための地域連携推進事業  
(中部ブロック研修会)報告  
お知らせ
  - ・青少年育成指導者のための研修会
  - ・中学生のメッセージ2010  
(第32回少年の主張三重県大会)協賛企業・団体
  - ・三重県立みえこどもの城  
臨時休館

&lt;編集発行&gt;

(財)三重こどもわかもの育成財団  
〒515-0054 三重県松阪市立野町1291  
(みえこどもの城)中部台運動公園内  
TEL : 0598-22-4911  
FAX : 0598-23-7792  
E-mail : ikusei@mie-cc.or.jp  
URL : <http://www.mie-cc.or.jp>



大川 円 先生

## 大川学園の「食育教室」

～50年の歴史をもつ調理専門学校の食育教室～

元気で暮らすために食事は大切です。大川 円（まどか）先生からお話を伺い、翌日は大川学園学童・トムソーヤの1～3年生対象の食育教室を見学しました。1回40人が受講、各調理台は6人の児童が1つのグループを組みます。

まず最初に本日の使用食材の栄養価について、「6つの基礎食品」を用いて説明がありました。メニューは〈夏野菜のスープ〉〈豚肉となすのミートソースかけ ホイル焼き〉です。<http://www.ohkawa-gakuen.ac.jp/>

### ■ 小学生は食育教室で何を“まなぶ”のでしょうか

Q：小学生対象の食育教室だそうですね。

大川：50年の歴史のある調理専門学校の食育教室です。私は専門学校で栄養学や給食理論を教えて調理師の育成を行っています。同じ建物の中に小学生を対象にした学童保育があり、その子たちに何か出来ないかということで、児童を対象に年に数回食育指導しております。

Q：食育教室で作った後は食べる楽しみがあって、喜んで参加するでしょうね。

大川：そうですね、明日は80名以上の小学生の調理実習があります。午前の部は2～3年生が中心で、昼食を作ります。午後は1年生が中心でおやつ作りです。午前中の子たちが午後の子たちの分も作って、午後のおやつは午前中に昼食を作ってくれた子たちのためにおやつを作ります。

Q：誰かに食べてもらうためにも作る。

大川：そうです。同じテーブルを囲んで「これ僕が切ったよ」とか「こういうふうに作るんだよ」という会話が自然になります。にぎやかです。

Q：仲間と食べるって、気持ちが和らぎますね。

大川：いわゆる一人で食べる“孤食”が日常的になると、冷凍食品とかで好きな物を食べる傾向になります。家族との食事でも、イヤって言ったら別の物が出てくる。例えば、今日の夜ごはんは「魚ときんぴらごぼうだよ」と言えば、「イヤだ、冷凍庫のピザが食べたい」「カレーがいい」と。一般的に、嫌いな物は絶対口にしないという子も多いようです。



Q：食育教室などで子どもと接すると、家庭の事情が分りますね。

大川：例えば、ピザ作りをする時に具を並べますが、ピーマン、茄子、椎茸などをのせない子、「全部嫌いっ」とチーズだけトッピングする子。どの子もひとつぐらいは嫌いな物がありますが、ここでは嫌いという食材も入れます。ピザの中にはコーンとか皆が好きな物だけでなく、嫌いなものも入れてチーズを多めにのせて、「こうやってピザで食べるとおいしいね」って分かることが大切なことです。でも、見ていない隙にパッと取る子もいます。「家でも食べてないし、食べなくていい」「お母さんも野菜が嫌いだけど、病気になってない」と。無理して食べて気持ち悪くなるなら、食べなくていいと家庭で言われているようです。

Q：そうですか・・・

### ■ 今どきの家庭の食生活

大川：食べないなら食べないでその子の問題なのでひっそりと苦手でいいのです。当初は一部の子ですが、大きい声で「こんなの食べんのか！」「気持ち悪い」と言う子がいました。周りの子がちょっと食べにくいような雰囲気になります。私は調理実習をする前に「苦手な物とか、初めて食べる物

があるかもしれないけど、臭いとか気持ち悪いとかこんな食べんのかって事は、絶対言わないでね。」と伝えます。声が大きいと周りの子に対して影響するからです。好きでいっぱい食べたい子も食べる雰囲気がなくなったり、ちょっと苦手でも食べてみようかと思う子も「やめとこうかな」とて気持ちになるからです。食べ物を残したり、捨てたりするのに抵抗が無い子は「捨てたらええやん」とか「残したらええやん」と周りの子に言います。苦手な場合は静かに「ごめんなさい」と残せばいいのですが、周りの人を道連れにするような感じがありました。でも、徐々に嫌いな子に周りの子が「おいしいよ。頑張って」などと励ます場面が少しずつ見られるようになりました。

年に数回の食育教室ですが、子ども達は色々と学びます。「赤緑黄色全部が揃ったのが栄養満点だよ」と指導しますので、保護者の方から「お母さん、今日は無いよ、緑色、野菜がないよって言われました」と伺うことがあります。実は、キュウリやレタスなどのサラダを食べる方は多いのですが、ほうれん草や人参、ピーマンの緑黄色野菜を食べる家庭が少ないようでしたので、「野菜は淡色野菜と緑黄色野菜の2種類を食べないといけないよ」と指導しています。

**Q：子どもの食育教室は、今では家庭教育の補充ですね。**

**大川：**子ども達に料理を作りながら食事のバランスについて学ぶ「食育の機会が必要だ」と思っています。好きな物が好きな時に好きなだけ食べられる時代なので、「自分の選ぶ力を高めてバランスよく食べる」ということが必要ですね。子どもの時から教えるのはすごく難しいですが、食習慣として必要ですね。

**Q：それが食育ですね、学校の給食の役割も大きい。**

**大川：**「学校で学んだ事や先生の指導をきちんと聞きなさい」という家庭教育をされていると良いですね。給食は栄養のバランスが素晴らしいので残さず食べなさいって、家庭の人に言ってもらわないとダメですね。

**Q：結局、家庭教育ですか。**

**大川：**そうですね、家庭ですね。学校で習ってきても家庭でそれを否定されるような事を言われてしまうと難しいと思います。大川幼稚園の先生は栄養の専門ではないですが、皆勉強していて、給食の時間に毎回三色食品群の赤・黄・緑に分けて、「今日の給食の中で緑は何かな?」と幼児に質問します。「はーい!酢の物のきゅうりがあります」って幼児が答えていますよ。

## ■ 仕掛け人 まどか先生

**大川：**最近の子どもが食べないような日本に昔からあるきんぴらごぼうや切干し大根など、そして、地産地消の食材、三重の郷土料理ですね。学童の調理実習で以前、冬場に筑前煮を作りました。

煮物は時間がかかるので家庭では一寸面倒かもしれません。「夕食に食べてもらいましょう」と子ども達がレンコン・ごぼう・人参などを大量に切って大きなお鍋でたくさん煮、家庭に持ち帰ってもらいました。家族に喜ばれたようです。「筑前煮、今度お母さん作ろうよ」と子どもの方から言ったそうです。シユーマイは「家では買ってくる」傾向があります。しかしこれも、白菜を切るところから始めて、具の内容を知り、一個ずつ手で包んで自分達で作ると美味しいということを、実習で実感してもらいます。

**Q：学童へ来ている子どもの家庭でも、家族で買い物に行った時などに子どもの手伝いを意識したメニューを考えただけるといいですね。**

## 最後に

いつの時代にも、食は元気の源です。身体に必要で安心・安全な食を意識することは学校でも学んでいます。「食育」という言葉は、1898年に石塚左玄が『通俗食物養生法』で、「今日、学童をもつ人は、体育も智育も才育もすべて食育にあると認識すべき」と記しています。1903年村井弦斎の『食道楽』でも「小児には德育よりも、智育よりも、体育よりも食育が先。体育、德育の根元も食育にある」と記してあるように、歴史的に、どの時代でも家庭の子育ての基本であったことが判りますね。(日本大百科全書より)

(文責：中西智子)



山田 正廣 先生

## 「学校経営品質」って ご存知でしょうか

最近「学校経営品質」って聞く機会があります。「学級経営」と「経営品質」はよく聞く言葉ですが、【学校経営品質】は初めて知りました。三重県独自に取り組んでいる考え方で、県立学校を始め市町立学校の多くで導入しているものだと県教育委員会の方から伺いました。その後、現場で実践している津市立栗葉小学校教頭、山田正廣さんから具体的なお話を聞きしました。

### ■ 「学級経営」と「学校経営」－教職員が組織として児童生徒に向かう－

教頭：「わかすぎ」って機関誌、市役所とか公民館にも置いていただいている。見せてもらったことがあります。これ全国的なものですね。

Q はい、三重県の子ども・若者の“育成”に関して、情報発信を意図して発行しています。実際の学校現場ではどのように取り組んでいるのかを「わかすぎ」を読んで下さる方へご紹介したいと思いました。

教頭：私たちは、この学校経営品質という考え方を全教職員が組織として一体となって児童生徒に向き合い、保護者や地域住民の皆さんから信頼してもらえる学校教育を確立していくための一つの手法として考えています。

Q 基本的に必要な事ですね。私立学校の入学は、学校としての教育方針と経営方針を納得して入学しますが、公立小中学校の入学は、住まいの校区の学校へ入学です。入学する前に教育方針と経営方針と言うより、在校生の姿から何となく感じていますね。

教頭：今まで地域の学校として教職員一人ひとりが「児童生徒のために」と考えて教育をしてきた事に間違いないと思います。三重県教育委員会では、学校経営品質という視点を使って教育の現状を検証しましょう、ということだと捉えています。

教育活動の結果、教師が思ったような成果が現れているのかをきちんと検証して、よりよい方向に更新していくために、「学校経営品質」のシート等をツールとして活用とする、という考えです。各教員が担当する一時間一時間の授業において目指した学習の成果もありますし、学年全体として目指した成果、さらには、学校目標のように教職員全体として達成しようと計画した（思った）成果というものもあります。

Q 今まで、各学校では「うちの学校はこういう教育を目指します」って保護者・生徒へ判る言葉で伝えていますし、保護者と地域の方たちへもお伝えしていますね。それとはまた別に？

教頭：基本的にはそのことです。でも、例えば、“自ら学ぶ”とか“質実剛健”と言う大きな教育理念はあって伝えていたけれど、各教師は具体的に目の前にいる生徒がどういう風に変われば、その目標指すところに一歩近づいたと言えるのかっていうことを具体的なイメージとして皆が明確にし共有していたか、と聞かれると、抽象曖昧なイメージのまままで判ったつもりになっていたために検証が不十分で次につながりにくかったのではないか、と言う反省です。

Q 三重県独自の「学校経営品質」って考え方は、数値的に結果を出すって難しいのではないでしょうか。学校では先生と生徒、学校を出れば先生も生徒も“地域の人”です。帰宅したら家族の一員。全てで、人が生きるには人間関係が基盤、大事な部分だと思いますが、数値化できますか。

教頭：全てのことを単に「数値化」するって言うのではなく、「経営品質」では児童・生徒がどのよう

になれば良いのかと言う具体的な目指す姿（成果）をあらかじめ検討し、それが実現したかどうかを検証できるような形で表した目標を設定しておかないと成果は測れないという考え方ですね。ここでの課題は、計画段階から目指す児童・生徒の姿（成果）を学校全体として明らかにし共有できていたか、ということです。その際に、だれもが目標を達成したかどうかをできるだけ判断しやすいように、数値やこのような姿・状態として表現するということだと考えています。

## ■「学力を伸ばしましょう」と「豊かに学びましょう」ってどのように検証するのでしょうか

**Q 「学力を伸ばしましょう」は良い点を取ることでしょうか、「豊かに学びましょう」は豊かって何ですかっていう気になります。教えていただけますか。**

**教頭：**極端に言えば、それを目標に掲げるだけで終わっていたということはなかったか、という反省です。一年間が終わった後でそれぞれの先生が自分なりの解釈で「子どもたちの学力を伸ばしたか」を振り返り、「ここまでできた」としていたことが多かったのかなと思います。

豊かに学ぶと言う目標をたてた時に、子どもたちの現状を踏まえて、この子どもたちが豊かに学ぶようになった姿とはどういうような事をイメージするのかをみんなで考え、これでよしと判断するための基準を明らかにして示すということです。学力を伸ばすって言うのはどういうふうになつたら、これを良しと判断するのかを初めにみんなで話し合おうということです。

例えば、豊かに学ぶと言うことを、「課題を出したときに、①自分で調べ学習の計画を立てることができる、②自分の計画に沿って実際に図書室に行って自ら調べたり、学年によってはインターネットで調べたりすることができる、③調べたことを基に自分なりの考えを書くことができる、④そして皆の前で発表できる、こういうようなことを自分で主体的にできるようになれば『豊かに学ぶことが出来る』と判断してよいだろう」というふうに捉えたならば、じゃあ、そういう子どもたちが育ったかどうかという視点（判断基準）で最後のところで検証しましょう。自分たちで、ということです。

**Q 今までやっていることではないでしょうか。**

**教頭：**学校では、教育目標を掲げ、それを実現するために各学年や分掌（係）を組織して、教育活動を展開する中で、それぞれに目標をもってやってきたと思うんですね。この学校経営品質では、学校全体としての目指す姿を踏まえ、それを実現するためには各学年や分掌（係）では何にどのように取り組み、結果としてどのような成果がでればよいのか。さらに、一人ひとりの教員は、それぞれが担当する教育活動においてどのような変容（成長）を目指すのかということを明らかにすることがまず求められます。そして、これらを、一貫性を持って具体的な姿で体系化しちゃんと共有することで、学校として組織的な取り組みをよりうまく機能させようということです。

**Q それを三重県では地域の方たちにも加わっていただいて始めている、ということでしょうか。**

**教頭：**「学校経営品質」って言うのは、全く新しい考え方を導入するものではなく、保護者や地域の皆さんを含めた話し合いを大切にしながら共通理解をはかり、学校全体としてよりよく機能する仕組みを整えることです。そして、個々の力をより効果的に發揮するとともに組織全体の力を高めて、教育活動の一層の充実に結びつけることだと考えています。

## 最後に

三重県内の学校では、地域の方たちに協力いただき、暮らしと結び付ける学習に力をそそいでいるを感じました。学校の社会的役割の確認が重要であることは無論ですが、小中学校・高等学校・特別支援学校において「学校経営品質」の言葉の元に、地域の方々のご協力を得ながら児童生徒が成長する姿を見守っていただけることは、ありがとうございました。(文責：中西 智子)

# 中学生のメッセージ2010 (第32回少年の主張三重県大会) 報告

平成22年8月29日(日)、鈴鹿市文化会館において、中学生のメッセージ2010(第32回少年の主張三重県大会)が開催されました。本年は県内61校から8,914名の応募があり、選ばれた14名が本大会で自らの主張を発表しました。

本大会では、鈴鹿市立白鳥中学校生・鈴鹿市立平田野中学校生・鈴鹿市立大木中学校生・鈴鹿市立創徳中学校生による運営協力や鈴鹿市立白鳥中学校プラスバンド部による演奏会など、中学生自身による運営コラボレーションが実現し、大会は大いに盛りあがりました。

なお、平成23年度は、伊賀地区(伊賀市・名張市)の市民会議の協力により、8月28日(日)、名張市青少年センターで開催されます。

## •審査結果発表•

賞	学校名	学年	名前	タイトル
最優秀賞	伊勢市立沼木中学校	2年	小倉萌那	地球の環境を考える～ゴミ問題について～
優秀賞 (順不同)	鈴鹿市立創徳中学校	2年	王皞吉	I am from China
	津市立久居西中学校	3年	安江知夏	新しいことへの挑戦
	紀北町立潮南中学校	3年	瀬田夏菜子	命の尊さ
優良賞 (順不同)	鈴鹿中学校	1年	まえむら果穂	自分のうつわに注ぐ「いのち」
	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	3年	伊藤那紗	文化の違いを越えて
	国立大学法人三重大学 教育学部附属中学校	3年	鈴木絢葉	「十五歳のある体験より」
	松阪市立飯高東中学校	3年	野呂まりあ	将来の夢から伝えたいこと
	鈴鹿市立平田野中学校	3年	平子桃奈	チョコレートって何?
	四日市市立三重平中学校	2年	杉田拓己	将来の夢
	日生学園附属中学校	3年	牧浦佐紀	世界で活躍する人々
	亀山市立亀山中学校	1年	豊田あきほ帆	私の「太陽」
	皇學館中学校	2年	奥田健吾	「ことば」と生きる
	鈴鹿市立神戸中学校	3年	長田彩乃	『見られている』今

(敬称略)



▲発表者14名と運営協力中学校生の皆さん



▲鈴鹿市立白鳥中学校プラスバンド部の演奏会

最優秀賞

## 「地球の環境を考える ～ゴミ問題について～」



伊勢市立沼木中学校 2年 小倉 萌那さん

ここ数年、新聞やテレビなどで『地球温暖化』という言葉をよく目にします。地球温暖化とは、人間の活動が活発になるにつれて、『温室効果ガス』が大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が上昇する現象だ、ということを、最近理科の授業で学びました。

実際起こっている問題としては、海面上昇や異常気象、水不足による動物の絶滅や作物の不作などといったことが多く報告されています。しかも、これ以上の温暖化が進むと私たち人間が生活していくことも難しくなるそうです。

こういった問題について様々な国が地球環境についての会議をし、地球レベルで取り組んでいます。しかし、現状はあまりよくなっているのではないかでしょうか。

私たちの中学校では毎年、地域の清掃をする活動があります。実際に清掃を始めてみると捨てられているゴミはとても多くて、拾っても、拾ってもなかなか無くならないように感じました。特にタバコの吸い殻がとてもよく目立ちました。いつの間にかすごい量のゴミが集まり、そこにはゴミの山ができてきました。

しばらくしてから、私は以前清掃活動した場所を通ることがありました。何と、掃除したばかりなのに、そこでまた、ペットボトルやお弁当のパック、吸い殻、お菓子の袋などを見かけました。今まで何も気にせず通っていた道ですが、この状態を見てとても悲しい気持ちになりました。

私はこの清掃活動をしてから、ゴミの問題について、関心を持つようになりました。そして、地球環境を守るために、次の三つについて考えてみました。まず一つ目は、今の地球の現状を少しでも多くの人に分かってもらうことです。テレビ放送やコマーシャル、ポスターなどで国民全体に伝え、決して人ごとではないという意識に変えていくことが大切だと思います。

二つ目は、環境問題に真剣に取り組み成功している国の政策を見習うことです。ドイツでは、環境問題に関してとても進んでいるそうです。ゴミを捨てないということではなく、ゴミを作らないということに重点をおき、飲料水を生産する企業は缶やパックジュースを作らないということを新聞の記事で読みました。これなら捨てるものはありません。繰り返し使えるものしか容器として使われず、これが国民に浸透していったようです。

また小さい頃から環境について学ぶ機会が多く、そのことが大人たちの意識までも変えていったようです。日本でも、幼い頃から環境問題について学んでいく機会をもっと増やすべきだと思います。

そして三つ目は、ゴミの処理についての法律をもっと厳しくすべきです。例えば不法投棄などをした場合の、罰則を今までよりも厳しくすることです。逆に、環境問題の取り組みに積極的な学校や団体、人々を発表し表彰することで国民の関心がもっと集まるのではないかでしょうか。

このようなことを、実行していくば地球の未来が少しずつ明るくなるはずです。

私はこれからも地球温暖化という環境問題について積極的に考え、今私たちにできることは、すぐに実行していくと思っています。

それは、私が大人になった時、この地球の環境が今よりよくなっていること、そしてそれを未来の子どもたちに引き渡すことが、私たちの役目だと考えているからです。

## 平成22年度青少年育成のための地域連携推進事業(中部ブロック研修会)報告

去る8月6日(金)に福井市地域交流プラザで行われた内閣府主催の中부ブロック研修会は、筑波大学大学院の土井隆義教授から「青少年のケータイ・コミュニケーションー常時接続される人間関係の光と影ー」をテーマに基調講演がありました。今日の青少年育成事業に取り組むうえでヒントを与えていただいた講演内容でした。以下に講演内容の一部を紹介します。



▲土井教授の講演の様子

- ◆ 現代の若い世代は、ケータイを電話機としてではなく、誰とでもつながる接続装置として活用して依存度が高い。ケータイでメールを交換することに意義があり、その内容よりも、感覚的なものに「本当の自分」を見出そうとしている。
- ◆ 豊かな人間関係を築くためには、大人がネットの規制など強制的に子どもたちを安全圏内へ囲い込むのではなく、ネットの何がよくて何が悪いのか、どのように向き合っていくかをあえて子どもたちに任せて見守ることが、現代の大人たちに求められている。

※11月29日(月)、30日(火)には国立オリンピック記念青少年総合センターで内閣府主催の中央研修会が開催されます。

### —お知らせ—

#### ■青少年育成指導者のための研修会

日 時 平成22年12月7日(火) 13:00~16:00

場 所 三重県総合文化センター 男女共同参画センター 3F セミナー室C(津市一身田上津部田1234)

##### 1 講 演

- ・テーマ 青少年健全育成から子ども・若者支援へ～子どもの権利条例づくりをめざして～
- ・講 師 竹村 浩 さん(NPO法人チャイルドラインMIEネットワーク／専務理事・事務局長)

##### 2 平成22年度「三重こどもわかもの育成財団助成事業」実践事例発表

- ・地域活動支援事業(亀山市:川崎子どもフェスティバル／名張市:子どもなんでも体★験★団)
- ・高校生世代活用事業(ボランティアグループ白夜・平成22年度財団表彰受賞団体)

#### ■中学生のメッセージ2010(第32回少年の主張三重県大会)協賛企業・団体(順不同)

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

(社)三重県薬剤師会	第三銀行	百五銀行 FRONTIER BANKING	CHIMAKI 千巻印刷産業株式会社
株式会社ぎゅーとら	(社)三重県歯科医師会	特定非営利活動法人 三重県歯科衛生士会	三重信用金庫
松坂ショッピングセンター <b>MARM</b> マーク	SANCO GROUP 三重交通	三重県中小企業団体中央会	JAバンク三重
PILOT	AEON MALL イオンモール鈴鹿ベルシティ	(社)三重県医師会	伊藤印刷株式会社

#### 三重県立みえこどもの城 臨時休館のお知らせ(予定)

期 間: 平成22年12月27日(月) ~ 平成23年2月28日(月) 3月1日(火)より営業開始の予定です。  
館内冷暖房装置の全面改修工事のため、みえこどもの城全館お休みになります。※事務局は開いています。

### 編集後記

子ども達に限らず、若者や大人にも必要な能力の一つに「コミュニケーション能力」があります。新学習指導要領では言語力や表現力を重視しています。考え方や異なる意見の相手ともきちんととした関係を築ける能力のことでしょう。全国大学生活協同組合連合会が2009年に実施した「学生生活実態調査」によれば、「友人の数が多い」「クラスやサークルなどの団体の中でリーダーシップを發揮する」「目上の人との会話が得意」「家族との会話が多い」「自分の主張より周囲の意見を尊重する」の回答率が高い学生の方が、就職の内定率が高くなっていました。表現を変えれば「社会性」ですね。家族や周りの人たちとのかかわり合いで学ぶと言えるのではないのでしょうか。

『わかすぎ』編集長 中西智子